

幼保小の架け橋プログラムだより

このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。架け橋期の教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

横浜市の幼保小連携の基盤となっているのが、「**横浜市幼保小教育交流事業**」です。昭和60年に始まり、各区の実行委員会を中心に30年以上継続しています。

18区がそれぞれに「園長校長会」「子ども同士の交流活動」「大人同士の連携活動」「健やか子育て講演会」など、様々な取組を行っています。

令和4年度はコロナ禍の中でも8割の小学校が交流活動を行いました。今年度に入ってから、かなり活発な交流活動が増えています。



幼保小連携担当

区内で実行委員となられた校長先生、園長先生方、交流事業の企画・運営をありがとうございます！

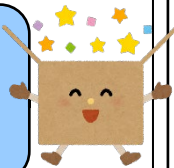
夏から秋にかけて、幼保小の職員が顔を合わせて行う連絡会や研修会を計画していただいている地区も多いようです。もちろん、戸塚地区のように区全体での会もありますし、小学校ブロックでの会もあると伺っています。

その際に「次の子どもの交流会はいつやりますか？」という連絡も大事ですが、ぜひ、戸塚区のように、リーフレットの「**架け橋カリキュラムデザインシート**」を使った**話し合い**をもってみてください。

シートの左端にある「話題」の例を活用していただくと、話し合いがスムーズに進むようです。

そして、顔を合わせた話し合いを通して出てきたことから、この後の保育・教育に具体的に生かせることを考えてみませんか？

園では、いろいろな空き箱を使って自分の作りたいものをつくる経験をしているんだって。1年の算数の「いろいろなかたち」の学習の時にその経験を聞くところから始めるのもいいね。



2年生が野菜を育てているそうだから、お散歩のときに花壇を見せてもらいたいかな。園での野菜づくりがより楽しみになりそう。

みなさんも、夏休み以降のカリキュラムの中に反映していかれることがみつかるといいかもしれません。自分たちの園・学校の架け橋カリキュラムづくりは、そんな一歩から始まります。

区幼保小教育交流事業レポート

～戸塚地区 担当者会 編～

7月6日に、戸塚地区では川上北小学校の体育館で幼保小の連携担当者会が行われました。



プログラム

- 1 実行委員長挨拶
- 2 架け橋プログラムについて

架け橋プログラムの大切さを伝えました。皆さんの熱心な姿が印象的でした。



S指導主事

- 3 交流グループごとの話し合い
- 4 終わりの言葉



リーフレットを皆さんで見えています。

この前、水遊びで子どもが楽しそうに…

あ、同じです、うちの園でも…



やっぱりだいじですよ、時間がたっぷりあるのは…

架け橋カリキュラムデザインシートを真ん中に広げ、テーマを決めて問1、問2、問3、と進めながら話し合うことで、それぞれに発見がたくさんあったようです。